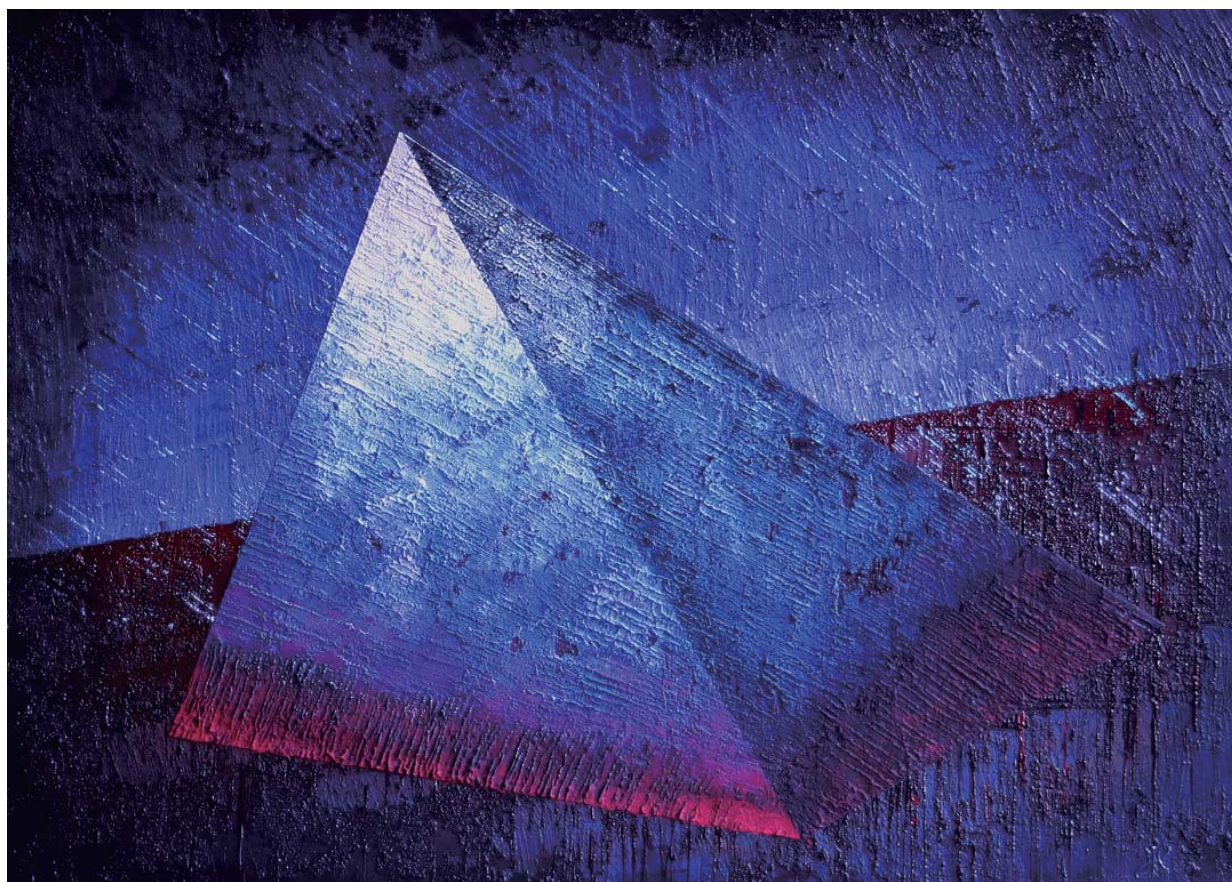


福井県医師会

だより

第629号 平成25年(2013)11月



ピラミッド 福井市 平野 治和

表紙写真説明：ピラミッド

福井市 平野 治和

アラブ世界の騒乱、流血はエジプトにも及んだ。9月、古代エジプトの文化財を収蔵するマラウィ国立博物館展示物が丸ごと略奪された。30年前新婚旅行にピラミッドを見に行きたかったが、研修医身分のため休みがとれなかった。絵を描いて想像してみた。政情安定を祈りつつ、いつかは彼の地に足を踏みたいと思う。

醫 縫 録

ならぬものはならぬ!

敦賀市医師会長 川 上 究



最近敦賀市医師会のホームページを更新することになり、その際に会の沿革を見る機会がありました。明治21年敦賀医師組合として発足とあり、今年で125年になります。改めて会の歴史を振り返ると感慨深いものがありました。敦賀市医師会の特徴を一言で表すと、家族的雰囲気のある会というものです。私も会員として25年になりますが、そういう雰囲気を感じながら、これまで活動させて頂いています。先輩の先生方の多大な御努力があったものと思われま。その伝統を守り、全ての会員の先生方とともに歴史ある敦賀市医師会を、さらに市民に信頼される団体として発展させていければと考えています。

さて、今回の参議院選挙では、羽生田先生が無事当選されました。又自民党が圧勝し、衆議院との「ねじれ」が解消されました。確かに与野党の数の「ねじれ」は解消したのですが、内容、考え方の「ねじれ」は巨大与野党内に内在化してしまっただけではないでしょうか。与野党の目に見える対立論争から、与野党の中での見えにくいものへ変質し、それ故対立、論争の決着の過程、理由なども分かりにくいものへなるようになっているように感じます。そもそも日本人は有史以前より、黒白、正誤をはっきり決めず中間的、グレーゾーンの考え方、立ち位置のようなものを核として社会を維持してきたという識者がいます。それを「村社会」と表現するのですが、そこでは対立を長引かせたり、表面化させたりせず、「ねじれ」を内在化したまま社会を維持してきたということです。日本という国は、そういう「村社会」の集合体であり、それ故比較的争い事の目立たない、穏やかな社会、国柄を形作ってきたとのこと。安倍首相は伝統的保守主義者らしいので、「日本を取り戻す」というのは、そういう穏やかな国柄を取り戻すということなのではないでしょうか? そういえば安倍首相の師匠筋に小泉という政治家がいました。彼は伝統的日本村社会の縮図のような自民党をぶっこわすと言って、党総裁、首相となり郵政民営化を絶対的善として、それに反対する人々を公認せず総選挙を行いました。ブッシュ米大統領とあまりに親しくなりすぎて、伝統的保守主義

者の中には眉をひそめた方々もおられたのではないのでしょうか。

さて、そのアメリカに主導されているTPPですが、その交渉をアメリカと協調してすすめるようとしている政府、与野党の中にあつて日本医師会の主張は力を持ちうるのでしょうか? かんぽ生命と米国の保険会社の提携が発表されたり、混合診療も農地の問題と同様に優先的に議論する(政府委員会)との報道を見ると、外堀を埋め立てられ、落城寸前の大阪城のように、日本医師会の主張が見えてしまいます。郵政選挙の際には反対するグループは徹底的に守旧派として攻撃されました。TPPに関しては、日本医師会がそのような立場に追いやられはしないかと非常に心配をしています。「日本を取り戻す」安倍首相がまさかとは思いますが、なにせ師匠筋があの人ですからどうなるのでしょうか? さらに万が一、日本医師会がそのような立場に立たされた時に、我々を擁護、応援してくれる国民がどれだけ存在するのでしょうか? 実はこのことが最も心配なことです。「よくばり村」のことは関係ないといふ多くの国民にそっぽを向かれはしないか心配をしています!

日本的村社会の有り様、双方対立、論争の旧在化、「ねじれ」の許容、構成員それぞれが不満と満足を同時に抱えながら維持されている社会(ある意味で成熟した民主主義社会?)。そういう有り様とちがう国柄の国々との交渉であるわけですから、あいまいなグレーゾーンの決着はあり得ようと思いません。JAなどはいくつかの品目で関税が維持されれば、まずまずといった落とし場所はあると思いますが、日本医師会の場合はどうでしょうか。適当な落とし場所が見当たりません。ここは一番、日本的村社会のおきてを破って、緻密で論理的な主張と強い決意で「ならぬものはならぬ」と政府にもものを申さねばならないのではないのでしょうか! 羽生田先生の御健闘を切に願います。次第です。